

「主体的に学ぶ力」を育む eポートフォリオ

尾木義久



■ 「ティーチング」から「ラーニング」へ

先行きが不透明な時代だ。生産年齢人口の減少、産業構造の大転換、AIの進化。目まぐるしいスピードで社会が劇的に変化する。この時代に求められるのが「生涯を通じ主体的に学ぶ力」だ。この力を育むため高等学校学習指導要領が改訂される。教師の「ティーチング」から生徒が主体となって学ぶ「ラーニング」への転換が始まる。

■ アクティブ・ラーニング「主体的・対話的で深い学び」

【主体的な学び】とは、「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか」である。例として「学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりすること」が示される。これがJAPANE-Portfolio（以下、JeP）の活用が注目される理由だ。

■ 主体的な学びとJeP

生徒がスマホ、タブレット等を使って学びの記録をJePに蓄積し、「自己の学びを振り返り、次の学びにつなげていく」。ただJePを導入しただけで生徒が主体的に学ぶわけではない。「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組む」ためのメソッドが必要だ。特に生徒自らが目標を打ち立てられるようになることが一番

重要だ。

■ 探究とJeP

【深い学び】とは、「習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか」である。「探究」も今回の改訂の目玉である。

「探究」では、生徒は年間を通じてあるいは3年間を通じて学びを展開する。文献に触れたり、フィールドワークで大学・企業・街の人々から学んだり、アンケート調査をしたり、実験をしたり様々な方法で、課題を発見し解決するための学びを行い、その成果を論文にまとめる等する。その学びの記録を電子化して蓄積すれば、極めて効率的にまとめができる。教師もいちいちノートを提出させなくても取組を把握できる。

■ JePの今後

JePは2019年4月より一般社団法人に引き継がれる。調査書の電子化も行われ、ともに進化を遂げていく。中教審の部会でもポートフォリオ活用が挙げられており、JePの重要性が高まる。生徒達にはJePで質の高い振り返りをしながら、真に豊かな人生を切り開いてもらいたいと心から願っている。

（おぎ よしひさ・関西学院大学学長特命）